

日刊 動労千葉

81.1.5
No.623

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄)二九三五(六)公衆(三)七二〇七

八一三に起つ

各支部長さん におききする

若土屋幹らをつかい燃料延長計画に、反対する。決議なるものを出させ、八一三に介入して動労千葉の闘争と組織を破壊すべく最も悪質な策動を開始しています。

支部定期大会を開催し、才四回本部定期大会で決定された闘う方針を支部組合員全体のものとしてうち固め、成功裡に勝ちとりました。



〈新しい看板の立った成田運輸区〉

勝利を信じて決起する

成田支部執行委員長
日暮 明

本年三月という月はジェット燃料暫定貨車輸送の終了するはずの月でした。しかし、本格パイプラインの完成が不可能となるや、政府・運輸省は、密議決定を反古にして「貨車輸送の2年10ヶ月延長」を一方的に発表しました。

われわれはこの向、三里塚空港反対同盟とともに「農民は土地を武器に」「動労千葉は鉄路を武器に」闘い続けてきました。とりわけ「本部」革マル反動分子による組織破壊攻撃・スト破壊を許さず、新生動労千葉成田支部結成半年にして、10.21、11.1の二波にわたる燃料輸送阻止のストライキを勝ちとってきました。

おどらく国鉄当局は近日中にも「延長提案」をしてくるでしょう。われわれのキッパリとした「延長阻止」の宣言に牽引されて社会党、総評、国労なども流動的な動きを開始しつつあります。また、これまでのごとく三里塚闘争に敵対してきた「本部」革マル反動分子は、裏切

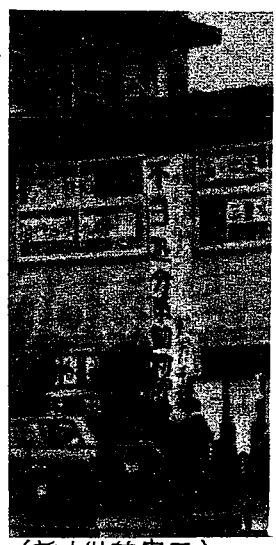
成田支部は、権力・当局・本部「革マル反動分子のさまざまに敵対を許さず、八一三に向け、「反合・三里塚ジェット闘争を水路とした八〇年代に通用する自前の労働運動」路線の真価をかけて、支部をあげて総決起してゆきます。もとより八一三闘争が現下の階級情勢の中にあつて、なまやさしい闘いでないことは成田支部組合員の一人一人が誰よりも一番痛切に感じている、むしろ、今まで闘ってきたすべての闘争よりもきびしい闘いになることを組合員は認識しています。しかし、かつてない強力なストライキを軸としたありとあらゆる力を結集して闘いぬく八一三闘争が果す大きな意義と勝利性を信じ、成田支部全組合員と家族は、より一層の組織強化・団結を固めながら、八一三に向けて組織のすべこをか

けて闘い抜く決意です。全国からの絶大な支援・協力をよろしくお願いいたします。

佐倉・成田を包んで闘う

新小岩支部執行委員長
松崎 靖

「八一三」へ向けてとりまく情勢が日一日と煮つまる中で、新小岩支部は12月20日に才三回



〈新小岩支部会館〉

すでに闘いは開始されました。「本部」を名乗る反動分子が銃子で焦ってギマン的な「業務再開」を叫んでいます。が、「本部」革マル反動分子が「四・一五津田沼襲撃」をやったばかりか当局に泣きついて処分を出させたという、あの反動的な言動・本質について決して危れることではありません。奮闘している銃子の仲間と手を組んで必ずこの分裂攻撃を粉碎し勝利せねばなりません。

「八一三」闘争を、佐倉・成田の仲間を包み、新小岩も最後まで共に闘いぬく決意です。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！